

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
89	川崎市立登戸小学校	棟居 謙

学校教育目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・自主的創造的に考える子どもを育てる ・人間性に満ちた、心豊かな子どもを育てる ・健康で、明るく、たくましい子どもを育てる ・強い意志を持ち、最後までやりぬく子どもを育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ○育成すべき資質・能力「自ら学ぶ力」「人間関係形成力」「自立的活動力」 ・自主 主体的に考える子どもの育成 (授業の充実) ・協働 共に支え合う子どもの育成 (心の教育の充実) ・自立 自分から気づき考え行動する子どもの育成 (実践的活動の充実)

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	<p>①基礎・基本の確実な習得と活用する力・互いに高めあう子どもの育成</p> <p>○全ての教科を通して学ぼうという意欲を高め、「わかる」「できる」「楽しい」を実感し、共に学び合う子供を育てる。</p> <p>○習ったことを生かし、意欲をもって学べるよう導入を工夫する。また 具体物やノートを活用し考えを整理したり振り返りをしたりして次の学習につなげる。</p> <p>○朝の短時間学習等を通して、基礎基本的な問題に繰り返し取り組み、知識理解の定着につなげる。また、学習状況調査の結果等を参考にして各学年の実態に合った取り組みをする。</p>	<p>◎基礎基本を確実に習得して活用し、互いに高め合う学習ができていていると感じている児童が増えた。どの教科においても、問題意識をもたせたり学習計画を自分達で考えたりすることで、児童の学ぶ意欲が高まったことが一因と考えられる。また、6年生は朝のモジュールで、学年習熟度別のプログラムを組み算数の学習を進めた。また、他学年でも社会と理科や道徳など、実態に合わせて交換授業を行ったりした。その結果、「わかる」「できる」「楽しい」が実感できる学習につながったと考えられる。</p> <p>◎研修の一環として、学習状況調査の結果を基にした振り返りを行い、児童の実態把握に努めた。</p>	<p>保護者アンケートにおいては、短時間学習や習熟度別の取り組み、交換授業の様子など、実感として見えにくいところもあるので、保護者参観の時間帯を工夫して理解につなげたいと考えている。</p>
2	<p>②個に合わせた支援の充実</p> <p>○少人数指導、教育サポーターによる支援を行う。</p> <p>○英語、算数、音楽、書写、体育においては専科的な役割を担う教員を配置し指導の充実を図る。</p>	<p>◎多くの教職員で子どもの学びをサポートできた学年の中で教科担任を決めて指導、専門科目担当(体育・音楽・外国語)を決めて指導、理解度に合わせて教室を変えた指導などを行った。多くの教員と児童が関わることで複数の視点から子どもたちの学びを支援することができた。教科担任を決めることで授業の質を向上させることができ、子どもの「分かった」・「できた」に繋がった。</p> <p>○授業の質を向上させる 教職員や保護者は成果を感じているが、児童はマイナスの数値が増えた。本校は経験の浅い若手の教員も多い。教職員全体で、授業の質を向上できるように研究・研修の時間を確保することが必要だと感じた。</p>	<p>現在も取り組んではいるが引き続き、授業力向上のために研究・研修に力を入れていく。またそのような時間が確保できるように年間計画を見直す。</p>
3	<p>③防災教育の充実</p> <p>○避難訓練・防犯訓練の想定ややり方を工夫したり、自分の身を守るための指導を行う。</p>	<p>◎避難訓練については、毎回現実を意識してふりかえり安全で迅速な避難となるよう問題点があればすぐに改善し、次回につなげるような取り組みをした。</p> <p>◎昨年度より取り入れた児童非常袋について、保護者の協力を得て進められている。</p> <p>◎避難所開設訓練については、職員もできる限り参加するようにし有事の際、児童管理以外に取り組みなければならぬ業務を知ることができた。</p>	<p>教科を通じて防災・防犯意識を高めていくような取り組みを少しずつ始めたが十分ではない。今後、家庭を巻き込み有事を意識した取り組みを広げたい。</p>
4	<p>④情報教育の充実</p> <p>○一人一台タブレットPCを利用して、機器の端末操作方法を系統的に指導し、適切に活用できる力と態度を育成。</p> <p>○発達段階に合わせて系統的に情報モラル教育を進め「適切なコミュニケーション」の力を育てる。</p> <p>○保護者と共に学び、日常に生きる情報モラル教育を工夫し実践する。</p>	<p>◎情報教育の充実度アップ 教職員・児童・保護者すべてにおいて、昨年度よりも情報教育が充実していると感じている人が増えた。保護者見学可の情報モラルの授業を初めとして、学習の様子を家庭に積極的に発信してきたことで、学校で何をしているのかがより伝わった結果だと考えている。</p> <p>◎教職員研修の充実 次々と登場する端末の新しい機能や使い方について、都度研修する機会を設け、教職員全体のスキルアップに努めた。教職員が自信をもって端末を使えることが、学習の様子を今まで以上に家庭に発信できることに繋がったと考えてる。</p>	<p>来年度以降、児童の端末入れ替えとともに、機種への理解を進める。</p> <p>情報端末を学習の中で効果的に使用できるように職員も常に意識高くスキルを磨いていく。</p> <p>引き続き、保護者とともに情報モラルについて学び、児童の健やかな成長につなげていく。</p>
5	<p>⑤健康教育・運動する子ども</p> <p>○日々の体育授業や養護教諭・学校栄養士による健康に関する授業や日常的な衛生管理への意識を高めるなど、健康や体力に関心をもつ子供を育てる。</p>	<p>◎体育科の研究推進校としてコーディネーション運動取り入れた授業研究今年度から体育科の研究推進校として子どもたちの心と体を育てた。体育学習を目指してコーディネーション運動を取り入れた授業を研究した。コーディネーション運動は、東九州短期大学の小林先生から指導を受け、子どもの実態や単元に必要な動きと結びつくような運動を取り入れた。</p> <p>◎養護教諭・栄養教諭と連携した健康教育の推進 養護教諭は1・3年生に「歯」2年生に「目」の授業を行った。目標を立て、家庭でも気を付ける様子がみられた。栄養士は1・2年生に「いろいろ食べよう」の授業を行った(1年生はこれから)。野菜の残量が減った。6年生と保護者に講師を呼んで健康の講話を開催した。</p>	<p>コーディネーション運動を取り入れたことによる効果を検証し、推進校2年目として子どもたちの心と体の成長につながる体育学習を推進していく。また、地域の幼稚園・保育園と連携して、運動が子供の脳の発育に大きな影響がある理解を広め、コーディネーション運動体験会や出前授業など地域貢献にも力を入れていく。</p> <p>小さいころからの正しい生活習慣を身に付けていくことが大切なので、引き続き低学年を中心に養護教諭や栄養士が専門的な立場から担任と連携して授業を行っていく。</p> <p>学習状況調査の生活習慣アンケートの分析し、保護者にも広報していく。</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
6 ⑥命の重さや価値を実感し、思いやりの気持ちをもつ	○年間の教育活動を通して、自分も相手も大切にできるように努める。(人権週間、子どもの権利学習、SOSの出し方・受け止め方教育、行事など)	◎日々の教育活動全般で、命の重さや思いやり、権利について考える機会を積み重ねてきた。 「子どもの権利条約(3年総合)」 子どもの権利条約を学び、子ども会議を開きました。みんなが権利をもっているんだ！ということを伝えるために、地域に向けて自分たちが考えた登戸子ども祭りを開催した。権利を知ることだけで終わるのではなく、学習を生かしたことを発信する取り組みを行った。 「SOSの出し方教育(全学年)」 自分の心の痛みに気づき、心配事や不安を周りに相談することの大切さを学習した。ワークシートに取り組み、自分の好きなことが自分の支えになることにも目を向けた。	児童の意識は高いが、保護者への活動内容の伝達が不十分であるという結果から、授業内容について引き続き周知に努める。
7 共生・共育の実施、コミュニケーション力の育成、いじめを許さない学校風土	○各学年7時間の「共生＊共育プログラム」を行い、社会性のスキルの習得に努める。 ○「学校生活アンケート」を実施し、一人一人の思いをくみとることで、いじめの防止に努める。 ○教職員はいじめ防止委員会を計画的に開催し、教職員で課題を共有しながら、いじめ防止・問題解決に努める。 ○支援教育コーディネーターを中心に子供の心に寄り添ったチーム支援を行う。	◎いじめを許さない学校風土をつくるために様々な取り組みをした。取り組みの1つとして「共生＊共育プログラム」は、小グループで力を合わせたり、お互いのことを信じて答えを導いたりするエクササイズが多いため、人間関係づくりのスキルを楽しんで身に付けることができている。 ◎「学校生活アンケート」で子どもたちの現状把握・課題の早期発見により、担任や学年、支援教育コーディネーター、養護教諭と連携し、早期に対応することができている。 ○「共生＊共育プログラム」とセットで実施している「効果測定アンケート」をさらに活用することで、児童理解を図り日常の指導にいかしていく。 ◎「ほっとルーム」(別室)や保健室で、心を落ち着かせて話ができ笑顔が見られている。 ○支援教育コーディネーターや養護教諭の他にも巡回スクールカウンセラーにも気軽に相談や話ができるとうい。	コミュニケーション力の育成やいじめに対する対応など、当事者意識をもつことは多くの保護者ではないので、学校の取り組みが伝わりづらい項目である。 多様な学びの場が用意されていることなどが伝わるように広報したい。 児童にとって学校生活アンケートが問題の早期発見につながるよう組織の意識を高くする。 支援教育Coがフリーで動けるような人事配置ができたことは、委員会に感謝している。また、そのサポートして活動する担当が問題を抱えた多種多様な児童と接するので、経験豊富な担当者の配置をのそんでいる。
8 皆が気持ちよく過ごせるための規範意識の育成	○児童会活動を中心に、子供たち自身が気持ちよく過ごすことができる学校生活のルール作りについて考える機会を設ける。 ○生活目標を通して、規範意識の育成に努める。	◎「朝や放課後にも、校庭で遊びたい」という子どもの意見をもとに、児童会で話し合いをした。けがをしないように遊び方のルールを決めて活動している。 ◎毎月の生活目標について、クラスごとにクラスの目標を決め、月末に振り返りを行いました。自分たちの課題を意識し、行動にうつすことができた。児童アンケートの数値は上昇している。 ○GIGA端末の使い方の「活用のヒント」を使って、子どもたちが、自分たちで安全な使い方を考えるように取り組みを続けている。	校庭開放プロジェクトについては、朝の開放も話し合いによって実現しているが、遊びのルールが希薄になっている部分について、くりかえし児童に戻して改善するよう促す。 児童の規範意識の向上がアンケートからみられることが嬉しい。次年度は、全校児童で問題意識を共有し一堂に介して話し合う時間を月1回とれるように行事予定を検討する。
9 主体的に取り組む気持ち、自己有用感の育成	○委員会活動・クラブ活動、係活動その他の活動において、子供たちの発想や意欲を生かした活動に取り組む、自分たちで楽しい学校をつくれるように指導する。 ○運動会や日常の児童会活動など児童の発想から活動が進められるようにする。 ○行事を通して協働し、連帯感・達成感を味わわせる。	◎自分によいところがある、人の役に立ちたいという本校で大きな柱にしているアンケート結果は大変良好に表れている。 特別活動において、児童の発想を大切にしたい取り組みが重ねられている結果と考える。 委員会活動などやられる感をもっている児童も少なからずいるので、当事者意識を高くもっているような声かけが必要 次年度校庭が狭くなるため、新たな運動会のスタイルを児童とともに考えなければならない。	生き生きとした児童の実践について、即座にHPで紹介したり、アンケート集計システムによる保護者の反応を紹介したことが、保護者の関心の高さに比例することがわかった。今後も、継続する。 職員の特別活動に対する指導について、研修をし大人が柔軟な発想で支援できる体制を構築することが大切。 運動会については、変更が大きい春開催を秋開催にすることで児童が計画する時間を確保する。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
10	<p>危機管理・施設の整備</p> <p>○心肺蘇生法・AEDやアレルギー研修、学校安全マニュアルを活用する。</p> <p>○日頃の感染防止対策の徹底、教職員による清掃および消毒作業、子供の作品や学習に活かせる掲示物の工夫などを行い、清潔な空間を心がける。</p> <p>○地域の安全見守り、避難所運営会議、PTAと連携し児童の安全確保を図る。</p> <p>○感染予防教育や交通安全教育、薬物乱用防止教育等を実践し、安全に対する意識向上を目指す。</p> <p>○教育委員会、地域、保護者と協働し、学校施設設備環境の改善に努める。</p>	<p>◎年度当初に教職員研修(給食アレルギー対応・エビベン・心肺蘇生法)を実施し、緊急時の対応能力を高めてきた。</p> <p>◎例年以上に樹木の剪定・伐採に注力し、見通しの良い校内環境を整えた。除草作業では、児童・教職員に加え、保護者や地域の方々にも多大なご協力をいただき、約50袋分の除草を行うなど、学校外周を含めた美化を実現した。</p> <p>◎登下校見守りをはじめ、保護者や地域の皆様のご協力のもと、公道での歩き方指導や交通安全対策を継続して実施しています。</p>	<p>環境美化については、樹木選定や除草についての労力不足のため、シルバー人材センターの方の力をお借りできないか模索したい。</p> <p>児童向けの予防教育については引き続き力をいれて行っていく。</p> <p>コミュニティスクール委員だけでなく、地域・保護者ともによりよい教育空間を構築したい。</p>
11	<p>地域に愛着をもてるような教育活動</p> <p>○生活科・総合的な学習の時間・社会科の学習、行事等で地域の「人・もの・こと」との出会いやふれあいを通して地域を愛する気持ち、感謝の気持ちを育てる。</p> <p>○目的をもって地域に出かけ、地域のよさを実感する活動を取り入れる。</p> <p>○積極的に地域教育資源を開発し、地域と連携した授業開発を進める。</p>	<p>◎生活科・総合的な学習の時間・社会科や行事を通して、地域のとのつながりを大切にしながら、子ども達が学んだことを生活や地域で生かせる学習を進めてきた。</p> <p>◎教職員が地域で開催された「登戸ミーティング」に参加し、学校での取り組みを地域に伝え、地域人材とのパイプ作りに取り組んだ。</p> <p>◎各学年の総合的な学習のカリキュラムを見直し、「地域」を軸とした展開を進めた。</p> <p>3年生・・・「人権・防災」⇒ 子ども権利条約の「参加する権利」を学んだ。自分たちの「子ども会議」を開き、地域の方や保護者を招待した「子どもまつり」を展開。</p> <p>4年生・・・「福祉」⇒ 地域の方と「ボッチャ」で交流をしたり、地域の「福祉フェス」に参加したりするなどさまざまな福祉体験活動を通して思いやりの心を育てた。</p> <p>5年生・・・「環境」⇒ SDGsの学習を通して学んだことを生かして「登戸の町」をよくするための実践を行った。地域の施設とコラボした学校の柿ジャムづくりにも取り組んだ。</p> <p>6年生・・・「キャリア教育」⇒登戸の町に住む様々な職種の方に話を聞き、将来について考える機会もつた。</p>	<p>職員が登戸ミーティングに参加し、地域の方とコミュニケーションをとれたことがきっかけで、多くの学習材を得ることができた。継続したい。</p> <p>地域に貢献する経験が、児童の自己肯定感や有能感、人のために役に立ちたいという思いを高くしている。各学年のカリキュラムをと次年度に必ずつなぐ。そのために、年度当初の生活科、総合的な学習の時間の研修会を必ず開催し学年が目指す学習の流れを全職員で確認し実現を目指す。</p>
12	<p>学校評価を生かした教育の改善・情報発信</p> <p>○学校便り・学年便りにおいて教育方針や児童の様子を保護者・地域の方々にお知らせしたり、随時ホームページを更新する。</p> <p>○保護者向けの手紙、調査結果等メールによる配付。紙文書の削減のために、ミマモルメやホームページによる文書配付を進める。</p> <p>○学校教育推進会議でのご意見や保護者アンケートを学校改善に役立てる。</p>	<p>学校ホームページやミマモルメによる保護者へのデジタル配信についてはおおむね構築された。ホームページの閲覧回数は毎月1万件となっている。</p> <p>保護者アンケートからは、授業参観の授業場所や内容など紙で提供を求められているが、HPの内容を印刷してものを個別で持っていくように対応している。</p> <p>学校評価アンケートや行事アンケートについては、一方通行にならないように、AIなど利用しながら整理分析してフィードバックするようにしている。</p> <p>年度途中より早めに行事予定を知りたいという要望に答え、2か月分の予定を掲載するように変更した。</p>	<p>今後も情報の即時配信に心がけ、学校経営の指針や子供たちの様子が伝わるようにする。</p> <p>ミマモルメについて、配信回数が多いという指摘があるが、一つ一つの伝える内容が違うので、まとめてできるか吟味して配信する。</p> <p>アンケートについては、児童も見ることが知らせている。学校運営に前向きに取り組める資料として扱っていることを保護者に伝えていく。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>1. 教育活動の充実について(コーディネーション運動・専科教員)</p> <p>児童の健やかな成長のために取り組まれている「コーディネーション運動」は、非常に素晴らしい取り組みだと感じました。また、現在も体育や音楽などで専科の先生による授業が行われていますが、これらの体制をさらに拡充していくことで、教育の質がより一層高まることを期待しております。</p> <p>2. 校庭の有効活用について(第2校庭の検討)</p> <p>新校舎建設に伴い、運動場の範囲が狭くなることは児童の活動に大きな影響があるかと存じます。資料にありました「プールエリアの有効活用」について、ぜひ積極的に進めていただき、使わなくなったプールを「第2校庭」として整備・利用することを強く要望いたします。</p> <p>3. 防災教育と地域連携について</p> <p>地域の防災力を高めるために、自治会と一体となった避難所開設訓練の提案に賛成いたします。その際、地域の大人の活動に留まらず、高学年の児童を巻き込む形での実施を検討してはいかがでしょうか。子供たちが役割を持って参加することで、次世代の防災意識を育む貴重な教育機会になると考えます。</p>	<p>1. 施設修繕の仕組み改善:老朽化による修繕箇所が増加しているため、教育委員会への依頼に加え、区内の技能職(用務員チーム)と連携した迅速な修繕体制の構築を要望します。</p> <p>2. CS(コミュニティスクール)の担い手確保:学力・安全・環境・デジタルの4分野において、地域の専門性を持つ人材を募集し、組織的に学校運営を支える体制を整えます。</p> <p>3. 増築工事に伴う健康維持:今後5年にわたる工事期間中、校庭縮小による運動不足を補うため、コーディネーション運動等の室内でも可能な体力向上策を強化します。</p> <p>4. 登戸ブランドの構築:学校報告会等で「登戸ブランド」を発信し、子どもたちが郷土への誇り(学校自慢)を持てる教育活動を地域全体で創出します。</p>